

# 第 2 号

発行者 上野原市議会議長  
岡部 幸喜  
編集 上野原市議会だより  
編集委員会

## 上野原市

平成17年7月25日発行

# 議会だより

### もくじ

- 議長あいさつ  
議案審議(第2回定例会)  
.....2~3P
- 予算特別委員会報告  
.....4P
- 常任委員会レポート  
.....5~6P
- 近隣との連携 .....7P
- 一般質問 .....8~15P
- 議会活動・市民の声募集  
..... 16P



みんなの積み木がつながって街ができた(上小積み木広場)

# 議長 あいさつ



岡部 幸喜

最近のわが国の経済動向は自動車産業の輸出の好調やそれに伴う設備投資などにより、景気は一応回復の兆しが見えてきているものの、少子高齢化や「三位一体の改革」などにより、行政を取り巻く環境は依然としてきびしいものがあります。

本定例会は六月九日から二十四日までの十六日間の日程で行われ、平成十七年度一般会計予算をはじめ、各特別会計予算や補正予算、並びに市税条例の一部改正の条例制定など、全部で三十五件の案件が提出されました。

また、今議会において近隣自治体の例や市民の声も念頭に置き、再度在任特例後の定数を市議会として検討する必要があります。

そのため、議員定数検討特別委員会の設置と、市民から市立病院の建て替えの要望が多く寄せられているため、市議会としても病院のあるべき姿を検討するため、病院建設検討特別委員会の設置について議員による動議が提出されました。

皆様方とともに歩む議会であり、より住民が参加しやすい議会活動を目指しますので、今後とも

ご理解とご協力を衷心よりお願いして挨拶いたします。

## 第二回定例会

# 一般会計歳入歳出百十九億二千二百七十六万円

(万円未満四捨五入)

平成十七年第二回定例会は六月九日から二十四日までの十六日間の日程で開催され、十七年度一般会計予算の他、条例制定など三十一件が審議され可決承認されました。その他に、決算認定の四件は決算特別委員会を設置し審議することとなりました。

### \* 条例制定

### \* 専決処分の承認

### \* 平成十七年度一般会計・特別会計予算

### \* その他の案件

別に請願一件発議三件動議二件が審議され可決承認されました。

- 五件
- 三件
- 二十件
- 三件

## 専決処分の承認

(全て承認)

一、上野原市税条例の一部を改正する条例制定

県税条例の改正により年齢六十五歳以上者のうち前年所得合計額による特例適用処置の廃止です。



整った東部地域水道企業団

二、平成十六年度上野原市一般会計暫定予算補正(第二号)

歳入歳出を三千二百四十一万円減額し総額四十二億一千五百九十七万円(基金繰入金の減額)

三、平成十六年上野原市簡易水道事業特別会計暫定予算補正予算(第一号)

歳入歳出に百二万円を追加し総額一千九百三十五万円(整備統合事業補助金)

## 条例制定・その他の案件

(全て承認)

\* 五件の条例と上野原市の設置に伴う山梨県を組織する地方公共団体の数

財源と使い道

地方譲与税 地方消費税交付金 ゴルフ場利用税交付金 地方特例交付金 他 18億9846万	その他(議会費・労働費 農林・商工・災害復旧・予備費) 5億8709万
市 債 24億6260万	消防費 5億3549万
地方交付税 30億6500万	教育費 10億9672万
分担金・使用料他 2億6981万	諸支出金 12億0786万
繰入金、繰越金 寄附金、諸収入 11億5462万	土木費 14億0002万
市 税 30億7227万	総務費 14億9494万
	公債費 15億9780万
	衛生費 16億5938万
	民生費 23億4346万

平成十七年度予算

建設事業です。十六年度事業の新庁舎等

二、平成十六年度上野原町継続費精算書の報告  
 平成十三年度から平成十六年度事業の新庁舎等建設事業です。

の増減および規約の変更については、総務常任委員会の報告を参照してください。  
 一、平成十六年度上野原市繰越明許費繰越計算書の報告

討 論

一、一般会計予算  
 二、特別会計予算十九件  
 \*予算特別委員会の報告を参照してください。

反対 <小笠原俊将議員>

三位一体の改革で、国庫補助、負担金の減、地方への財源移譲の不充分さ、地方財政圧迫は住民サービス減となり、また土木費の増加などから市債が百七十九億七百万円と一貫して増えつづけていて住民一人当たり六十六万円にもなり反対です。

賛成 <杉本隆芳議員>

緊縮型の予算となつていますが、旧両町村の事業に

平成十六年度決算認定

も十分な配慮がされ、地域情報化等、将来の新市を見据えた予算で、厳しい財政環境の中、全職員の意味改革と行政コストの効率化を期待し賛成する。

一、平成十六年度上野原町一般会計・特別会計決算認定  
 二、平成十六年度秋山村一般会計・特別会計決算認定  
 三、平成十六年度上野原町水道事業会計決算認定  
 四、平成十六年度上野原町病院事業会計決算認定

\*決算特別委員会で審査されます。

農業委員の推薦

・水越旭祝・小俣英雄  
 ・細田宇内・山口頼光

小金沢土室山恩賜財産保護組合議会議員の選任

・横瀬佐勝・細川 實  
 ・古家先勝・舩木光好

請 願

請陳第一号 (全員賛成)  
 義務教育費国庫負担制度を堅持し、教育の機会均等及び水準の維持向上を図るための請願。

請願者

北都留小中学校PTA 連合会会長 東山 和広

発 議

(全員賛成)

北都留地区校長会会長 中村順一郎  
 北都留地区教頭会会長 安藤 睦美  
 山梨県教職員組合北都留支部執行委員長 小坂 健二  
 紹介議員 山下 仁  
 山口 公正  
 \*総務常任委員会報告を参照してください。

動 議

(全員賛成)

一、議員定数検討特別委員会の設置  
 提出者 杉本隆芳議員  
 二、病院建設検討特別委員会の設置  
 提出者 服部光雄議員



秋山のつり場

# 予算特別委員会報告

委員長 尾形重寅議員



予算審議中の委員

本委員会に付託された、平成十七年度上野原市一般会計予算、各特別会計予算、水道事業会計予算及び病院事業会計予算合わせて二十件について三日間、慎重に審査した結果、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

## △一般会計

一般会計予算は、百十九億二千二百七十六万円で、この予算額を平成十六年度の旧上野原町、旧秋山村の当初予算の合計

額と比較しますと、八億六千二百六十八千円の減額となっています。

## △歳入

歳入の主なものでは、市税が三十億七千二百二十七万二千円で十六年度の両町村の合計額に比べ、率にして一・三%の増加となりました。

地方交付税は、合併と福祉事務所の設置などにより三十億六千五百万円二十・三%。市債が二十四億六千二百六十万円

八・九%、昨年度より増加となり、三位一体改革などにより国庫支出金、県支出金それぞれ、二十九・六%、八・六%減少しています。

これらの歳入の減少分は、財政調整基金、市債管理基金の繰り入れで収支の均衡を図っています。

## △歳出

民生費が、二十三億四千三百四十六万三千円と前年度合計額と比較すると二十・九%、商工費が九千三十九万二千円と三十・二%、土木費が十四億一万七千円と五十三・五%とそれぞれ増加し、地域振興基金の創設のため諸支出金は十二億七千八百六十三千円と大幅に増加しています。

## △特別会計

国民健康保険特別会計（事業勘定）他十七会計で、八十一億四千六十五万円となり、前年度比、三億一千九百二十六万円と四・一%増加しています。主なものは、国民健



設置された福祉事務所

康保険特別会計（事業勘定）が、高齢化等で加入者の増加により、二十五億六千九百四万一千円で前年度比九%の増加。介護保険特別会計が、認定者、介護サービス利用者の増加により、十五億二千五百五十六万二千円と二十三・六%の増加となっています。

## △質疑

財政運営、行財政改革関連、生活基盤整備関連、保健・医療・福祉関連、教育、環境、観光など市

## △まとめ

市当局においては、行財政改革を一層推進するとともに、新市建設計画に伴う合併特例債の使途を含めて、財政運営の計画を綿密に立案し、市債の増額を極力抑え、自主財源の確保や、経費の一層の合理化・効率化についてさらに努力するよう要望しました。

## 付託案件の調査

総務常任委員長

服部 光雄

本定例会において総務

常任委員会に付託された

議案第六十二号から第六

十六号、議案第九十三号

と請陳第一号について、

平成十七年六月十三日、議

員全員協議会において

委員会を開き、委員全員

が出席して審査しました。

**議案第六十二号**

「上野原市人事行政の

運営等の状況の公表に関

する条例制定」

**議案第六十三号**

「上野原市地域振興基

金条例制定」

**議案第六十四号**

「上野原市公（おおよ

け）の施設の指定管理者

の指定手続等に関する条

例制定」

**議案第六十五号**

「上野原市新湯治場秋

山温泉施設条例の一部を

改正する条例制定」

**議案第九十三号**

上野原市の設置に伴う

「山梨県東部広域連合を組

織する地方公共団体の数

の増減及び規約の変更」

の五件は総務部長以下担

当職員の説明を受け、

**議案第六十六号**

「上野原市火災予防条

例の一部を改正する条例

制定」は消防長以下担当

職員の説明を受けてそれ

ぞれ審査しました。

その結果、議案第六十二

号、同六十四号は法律の改

正に基づく条例制定。

議案第六十三号は

合併に基づく基金の

創設。

議案第六十五号は

（秋山温泉に）運営

委員会を設置する条

項の追加。

議案第六十六号は

法律の改正に基づく

字句の修正と追加。

また議案第九十三



付託案件を審議する委員

号は市の町村合併に基づ

く加入団体の数及び規約

の変更であり、いずれの

議案も当然または妥当で

あるとして、委員全員一

致で原案の通り可決すべ

きものと決しました。

審査の際、議案第六十

四号の条例制定に基づく

指定管理者の指定は、今

後、その経過（進め方）

を議会に報告するよう、

市当局に求めました。

**請陳第一号**「義務教育

費国庫負担制度を堅持し、

教育の機会均等及び水準

の維持向上を図るための

「請願」を審査した結果採

択と決しました。

## 保育所・駅前駐輪場の調査

厚生常任委員長

加藤 忠亮

六月十日、所管事項の

調査として保育所・学童

保育所及び上野原駅北口

前駐輪場の調査です。

**保育所**

入所状況は五ヶ所の正規

保育所の定員三百六十人

に対し三百二人。また、

四ヶ所のへき地保育所の

定員二百四十人に対し六

十八人で全体での入所は

六十二％です。

**学童保育所**

四ヶ所あり、合計百五十

五人に対し百四十人で九

十％を超えています。

この学童保育所は小学

校一年から三年に就学し

ている保護者が、労働等

により家庭に居ない児童

が対象です。また、運営

は上野原幼稚園に委託し

ています。

**上野原駅北口駐輪場**

駅前歩道等の整備計画書

が山梨県から当市に提示

されたものです。

計画では、車道の整備

や歩道幅員二・五mの整

備を駅入口信号から二十

m位駅寄りから駅前ロ

タリーまで、中間地点に

自動車待機場所約七十m

を設置するもので、その

結果、市営の駐輪場が移

転となり、収容台数は三

百四十八台で十五台少な

くなりますが、県道

に対し直角に止めら

れ利用しやすくなる

予定が図面等で説明

されました。

視察調査先の秋山

保育所では、通園に

バス利用をしていま

すが、園児用バスで

ないため、安全性や

昼寝用布団が持ち帰

るよう要望しました。



島田小学校の学童保育所にて

れず衛生面に不安があり、

また、施設や遊具の老朽

化に対応が必要などの説

明がされました。

島田保育所の視察後、

島小を対象とした学童保

育所「かぜのこ」では、

非常口について調査検討

を要望しました。

**総括**

今回の調査で、保育所

及び学童保育所では安全

確保の徹底と、定数問題

を含めた調査研究、また、

駐輪場については長い間

の懸案事項であり、歩道

やタクシーの待機場所等

を含め、早期に整備され

るよう要望しました。

# 森林の水源涵養能力の保持を 経済常任委員長

## 久島 博道

六月十三日、建設経済部長、経済課職員の出席を求め西原地区の水源林整備事業の調査を行いました。

### 水源林整備の調査

これには平成十年度に旧上野原町と神奈川県企業庁との間で設置された「相模野水池上流域対策連絡協議会」において、神奈川県が旧上野原町に対し拠出金を支出し、これを原資に「地域環境整備



整備された水源林を背景に

基金」を設立、川の水質保全を目的に森林整備にその一部を充て、平成十年度から平成十九年度まで西原地区に限定した森林整備事業を実施する旨の「上野原町地域振興事業の助成に関する協定書」を締結して水源林整備事業を市内の森林施業に精通している北都留森林組合に委託し、実施しているとのことでした。

助成額は、平成十年度から十六年度までは、年額七百五十万円が決定されています。

西原地区の現地視察では初戸、向河原、郷原の三地区で行なっている事業内容について担当者から説明を受けました。

### 意見

説明後、委員から

は「各地区をバラバラに実施するのではなく、一箇所を大規模に実施した方が効果的ではないか」とか「人工林が枝打ちや間伐等の管理が行き届かなくなっているため、熊や猪等の大型動物の餌が不足し、農作物を荒らす原因にもなっている。水源保全だけでなく、動物の餌となる実の成る雑木の植栽も必要ではないか」などの意見が多く出されました。

上野原市の面積の八十一%が森林であり、そのうち人工林は六〇%を占めています。広葉樹の植栽や人工林の適正な管理と伐期齢を迎えた林分の適切な更新を図ることで、当事業の目的である水土保全へと繋がると考えられます。

富岡地区事業費二千万円市道一古沢・安寺沢線事業費三千万円、市道神野・栗谷線事業費四千万円、これらは辺地債を財源とする起債事業で整備予定との説明がありました。

しかし、秋山地区の辺地指定が今年度をもって見直されることになり、来年度以降の財源確保に見通しがかからないことから、現段階では事業の継続についての見通しが厳しいとの見解が示されました。また、市道中野、栗谷、板崎線につきましては国庫補助事業による整備が平成八年度より継続的に実施されており、現在整備中の遠所地区の第一工区終了までは引き続き事業が継続されることが示されました。

## 道路工事の調査

### 建設常任委員長

## 村松 郁夫

本定例会に付託案件がありませんので、所管事項の調査を行いました。

### 道路工事予定箇所の調査

六月十日、委員全員と建設経済部長、建設課及び下水道課関係職員、議会事務局職員と共に、平成十七年度に秋山地区で予定されている道路工事

予定箇所の現地調査を行いました。

秋山支所会議室において、概要説明を受けた後、秋山地区内の工事予定箇所をそれぞれ職員より説明を受けながら視察を行いました。

市道桜井・金山線の事業費二千万円市道桜井・



改良工事中の現場

行い、審議の結果、今回調査した全路線についてはいずれも旧秋山村の事業を引き継いだもので、年次計画により順次整備されている路線であり、住民の要望も強く、来年度以降も引き続き整備に向け取り組んで行くよう要請しました。

国における三位一体の改革の中で市町村の道路整備を取り巻く財政状況は非常に厳しく、市当局としても今回の調査結果を踏まえ、来年度以降の対応は今後内部で検討したいとの方向が示されました。

### 総括

現地調査終了後、委員全員により秋山支所に戻り会議室において総括を

## 藤野町・上野原市懇談会

五月十八日、上野原市内で旧三町村（上野原町・藤野町・秋山村）で三十年程続いていた議員懇談会は新市誕生により、藤野町との二市町で新しくスタートとなりました。

始めに親睦を図るために当市からの三チームと藤野チームの計四チームによるグラウンドゴルフ大会を実施し、藤野町チームが優勝し、個人の部では河内郁夫議員が優勝しました。



グラウンドゴルフ大会

その後、提案事項の協議が行なわれ、藤野町から「上野原市道の整備」について、上野原市から「合併をも視野に入れた広域行政推進」について、「藤野町道の改良拡幅工事」について提案がなされました。

倉田藤野町長から、相模原市との合併を四月から推進している、現状での上野原市との広域行政

等の論議は問題があるが上野原市には隣接しており従来の相互関係は重要であり、それらを踏まえ研究してみたいとし、藤野町道に関しては県境の確定が進まず着工出来ない箇所やすれ違いができるような工事を段階的に実施し拡幅に結びつけた。

## 県道上野原丹波山線連絡協議会

上野原丹波山線道路整備推進連絡協議会は五月二十三日上野原市・丹波山村・小菅村の議員及び関係者出席のもと上野原市で開催されました。

件を承認しました。

来賓に三市村首長・山下県議・横森振興局長・加藤大月土木部長・渡辺塩山土木部長ら多数参加し、議事に入り、平成十六年度事業報告及び決算報告、会則の改正、今年度事業計画及び予算の五

会則の改正は会長を議事から選出していたものを、首長から選出し奈良上野原市長とし、同道路の整備をより強力に進める改正です。

大月及び塩山土木事務所

の課長から現状説明の後、質疑応答があり、飯尾工事は昨年度予算一億七千万円から本年度は一億二千万円と約三割減少した財源不足と費用対



質問要望等が出された総会

効果を考えると大規模な工事は難しいとの見解が出されました。

なお、大垣工事にについては、地権者との合意が出来、工事に入る事が出来るようになったとの報告がありました。

また、バイパス化やトンネル化等の大規模工事は財政上の問題から現状では見込めず、予算等の問題から、各工区の工事完成時期等の明言をさけ

た答弁となっています。

また、関連の上野原あさきの線の工事説明会の開催や設置された水銀灯の供用開始時期等についての質問に対しては、早急に調査し回答をするとしています。

以上、全体には、用地確保問題と財源不足から問題が多く、同協議会の活動が期待されます。

# 総合グラウンド

## 桂川親水公園



尾形正巳議員

一、総合運動場建設について

旧上野原町には、五つの章から成る町民憲章がありました。

憲章その一「スポーツに親しみ、健康な町をつくります」とありました。

老いから若きまで多数の市民がスポーツに親しむためには、環境整備が急務であると考えます。近隣自治体に比べても上野原市は総合運動施設の面で遅れているのが現状です。すみやかに総合運動場の建設を望みます。

〈社会教育課長〉

総合グラウンド建設につきましてでは、市長部局を含め調査、検討を行っている状況です。

〈再質問〉

近年上野原少年サッカークラブが力をつけ、近県より試合の申し込みが殺到しており、適当なグラウンドがないのが現状です。

〈市長〉

市は本年度中に、利用目的や施設概要などをさらに具体化し買収する計画であり、買収が決まった場合、サッカー場などの総合的なグラウンド整備に取り組みたいと思います。

〈再質問〉

二、桂川親水公園について親水公園は着々と工事が進行されており、当初

の計画の完成までには、あと数年と思われる。しかし、桂川橋左岸、右岸とも整備がなされ市民は健康づくりに、憩いの場にと活用されております。提案する事業は、悉聖寺地域の通称キンギ岩付近から鶴島側右岸に歩

行者専用の吊橋を架けることです。

実現されれば周回道路が出来、景観はすばらしいものとなります。

〈建設経済部長〉

現在、島田地区におきまして、県の河川整備事業を行っています。

「吊り橋」は、大月建設部へ構想を伝えていきますので、一連の河川公園の整備が終了するまでには何らかの回答があると思います。

今後、大月建設部と協議していきたいと思っております。

## 新市建設計画行政改革



服部光雄議員

一、上野原駅の駅舎改築と南口開発について、どのような計画と、特例債を含む資金の投入を考えているのか。

〈市長〉

南口開発はこの土地の改良事業の終了と土地登記が完了するのを待って買収交渉を始めることになるが、相当の期間を要し、市としても最大の課題としてプロジェクトチームをつくり、市を牽

げて取り組んでいきます。なお今回は駅舎の改築は考えていません。

〈市長〉

今回、市の計画が県の観光振興戦略の重点施策「魅力ある観光地づくり事業」のモデル地域の一つとして、指定された。県はモデル地域の策定した地域振興計画に基づ

く事業には、ハード・ソフト両面で支援することになっており、これから策定する市の観光振興計画の中に盛り込んでいきます。

三、県は東部地域の医療体制を検討し、公立病院の規模・配置等を検討するとしているが、市は東京八王子医療圏にも属している。

これについてどう考えるのか。



駅から望む桂川





秋山の高齢者たちが集う老人福祉センター

〈市長〉

市が東京医療圏にも属しているのので、県に対して住民の立場に立った柔軟な姿勢を求めていきます。

四、社会福祉協議会の役割をどう考えているのか。

〈市長〉

社協には民間企業、ボランティア団体などの協力を得ながら、それら団体の役割分担の中で全体の効果・効率が最大限得られるような調整機能を得たい。

果たすことが求められており、市としても組織や人員配置を含め検討していきます。

五、市としての環境対策は

〈市長〉

環境審議委員を七月に委嘱して市環境基本条例を制定、来年度に基本計画策定業務を委託し、翌平成十九年度中の公表と施策の実行に入ることを予定しています。

## 神奈川県へ支援要求 「癒しの時代」の取り組み



長田助成議員

一、相模川の上流域として神奈川県にどのような支援を求め、働きかけをしているか。

〈総務部長〉

相模ダム建設以来、多くの課題が発生、台風、大雨等の水害や、浚渫工事によるホコリの公害等です。陸揚げ場の神奈川県への移転、貯砂ダム建設、下水道事業、広葉樹転換事業への支援をお願いし、今後も継続します。

〈市長〉

台風の水害補償や上流として下水道、森林手入れ支援の申し入れを、歴代知事に対し行ってきた。津久井四町並みの事業支援を今後も粘り強く要

二、病院経営も難しい時代が利用者増のための森林療法は如何か。

〈病院事務長〉

新卒後臨床研修制度に伴い医師不足となり五名の常勤医師の減少、看護師の不足による一部病棟の閉鎖と、市民の皆さんに心配をかけている。地域の中核病院の役割を果たすべく医師、看護師確保と、住民サービス向上に努力を続けたい。

〈市長〉

森林療法の「科」づくりは今考えてないが、子どもは病院として保険医療で、対応しているので担当課で、森林空間利用の健康づくりを取り組んで



補助金で整備した山林地

もらいたい。

三、「癒しの時代」と言われているが、小動物公園(うさぎ、やぎ、にわとりなど)づくりを計画してはどうか。

〈建設経済部長〉

現在日常生活の悩み、ストレスなど深刻な問題で肉体的、精神的安らぎを求めた「癒し」は重要な課題です。小動物公園づくりには、ウイルスの人間感染、場所の選定、病原菌の対応、獣医確保、管理人の確保、尿尿の処理、悪臭対策、野生動物からの保護など多くの課題があり、動物園の形態となると多額の費用も必要となり、現在のところ建設計画はありませんが、市は桜や花木による「癒し、空間」を演出して森林レクリエーションエリアの整備を検討し、観光審議会で協議したいと考えている。

## 学校適正規模・適正配置



卯月正次議員

一、児童生徒のためによりよい教育を実現するには、教育環境をなお一層整備し、教育条件の不均衡をできるだけ是正する事が必要であるとの観点から、平成十五年三月に学校等適正化審議会より答申書が提出されていますが以降の対応を伺いたい。

〈学校教育課長〉

答申後各学校の保護者、PTA関係者に対して答申書の経過と内容について説明しました。

中学校においては、教科担任制となることから一人の教員が同一学年の一教科を担当することが望ましく、又生徒の興味関心能力等が多様化する



バスで通学する子供達 (秋山小)

時期であり、選択教科等の学習、クラブ活動が一層重要な意味を持ちます。著しく少子化の進展している中で、二十一世紀

を担う子供達の教育環境がどうあるべきか真剣に考えなければならぬ大きな課題であり、今後地域の皆さんやPTAをはじめ関係者と十分な協議を行い、方向性を出していきたいとして理解と協力を求めました。

又新潟県への先進地の研修の中で進捗状況について話を伺いました。

〈再質問〉

各学校には長い歴史があり、地域のコミュニティ

イの中心で、地域住民の教育の中核的な役割も果たしている。

新市に移行したが、今後の方針は。

〈学校教育課長〉

答申書の策定経過の中で地域住民、PTA関係者などへの十分な説明が

## 大震災・大水害時の防災対策



尾形幸召議員

行われなかったことへの反省や、その後各地区説明会での意見等を踏まえるとともに、視察研修の教訓を活かしながら、地域の特長や児童生徒数の推移を勘案して進めていきます。

通学手段、通学路の整備、校舎の有効活用等課題は多い。

〈再質問〉

子供達の視点に立って熱意を持って確固たる対応が必要だが。

関係各位と協議検討しながら取り組みます。

〈教育長〉

一、防災対策について

(一) 避難場所は充分か

(二) 山間地避難場所は

(三) 仮設住宅は充分か

(四) 防災倉庫備蓄品は

〈総務部長〉

市の指定広域避難場所は小中学校・公民館など公共施設を中心に屋内施設三十二箇所、合計床面積一九、八〇〇㎡で、概ね市の人口の二十三%に当たる六、六〇〇人が収容可能です。

上野原市に最も大きな被害が想定される「藤の木・愛川断層地震」では山梨県の被害想定調査によると避難者は一、四三〇人が予想されます。

山間地では指定広域避難場所まで辿り着けない場合が想定されますので、

一時避難場所として市の了解のもとに自主防災会が身近な集会所を指定する必要があります。

市としても地域の人々

の避難が確実に行えるよう防災マップを作成し地域住民に徹底します。

仮設住宅は旧上野原中学校グラウンドに六十九戸の建設を予定しています。

今後、計画的に建設候補地の準備を進めます。

備蓄品は食料・日用品・資機材に大別します。乾パン二五、六〇〇食、飲料水は一日三リットル換算で三三、〇〇〇人分、日用品は毛布一、二〇〇



防災倉庫の充実

枚・哺乳瓶五十個・食器セット一、〇〇〇人分など、備蓄は三日分を目標にしていますが費用とスペースの用意は困難です。常日、自己備蓄については三分程度の用意が必要です。

二、ライフラインのうちで仲間川水系の取水口から浄水場までの流水路の決壊を危惧しますが。

〈建設経済部長〉

危険箇所は一キロメー

トルと考えておりますが、二年間でルート選定の調査委託を受注し(約七〇〇万)、ルートを決定、今後、国・県に働きかけ、国の補助事業の中山間総合整備事業等に対応していきます。

未整備のうちに災害が発生した場合、水道課と協議して、復旧が完了するまでの間、他の給水区域に接続して使用できる対応をとります。

## 地域防災



関戸将夫議員

### 一、地域防災

発動体制の確立や情報収集・伝達システムの整備、避難路・緊急輸送路の確保、救急医療体制の整備、防災知識の普及・啓発について伺いたい。

〈総務部長〉

① 三段階に区分し、対応する。各部では全員が整備につき、活動が円滑に行える体制をとる。

② 行政防災無線、地域イントラネットの利用、衛星携帯電話、など複数的手段により通信を確保する。市民への伝達は、行政防災無線、地域イントラネットの利用、アマチュア無線等の利用を実施又は計画しております。

③ 市が指定する位置を示して、市民の一人ひとりに自分たちが避難するときに使う経路を確認していただけるよう、自主防災活動を支援する。

④ 医師会や消防署などと連帯を図り、又市立病院を中心に市内外の医療機関と協力して、住民に対する医療を実施する。

⑤ 防災の基礎的知識や地域の実情のご確認と自らの身は自ら守る「自助」、地域住民相互の援助による「共助」が被害を軽減する。市が「公助」としてできることとともに日頃の備えとしていただきたいと考えております。

### 二、福祉

福祉バス・リフト付きバス導入と秋山地区の園児送迎バスについて伺いたい。

〈福祉環境部長〉

① 市社協の協力でリフト付きワゴン二台・軽自動車三台を利用しています。利用者のご要望を伺う中で検討して参ります。

② 保育料や保育時間等の諸問題を含めて、保護者や地域の皆様のご意見を伺いながら、より良い方向に検討して参ります。



リフト付きワゴン車

三、光ファイバーケーブル現在のナローバンドからブロードバンドにできないのか伺いたい。

〈総務部長〉

① ユーザーが確保できないため無理と思われる。CATV基本設計の中に予算を付け、付加価値として予定しています。

# 秋山西部・四方津方面 連絡道路



杉本 茂議員

「秋山西部・四方津方面連絡道路について」

合併における意向調査で六十五%の賛成は、西部トンネルが合併重点目標に上がったためと思います。山梨県も調査費が計上されたが、市も建設計画の

中に重点目標とし、合併特例債を活用し十年計画で整備をと思うがどうか。

〈建設経済部長〉

西部トンネルは、新市建設計画の道路網の整備に、国、県の支援と合併特例債を活用するとして



西部トンネルの入口（秋山側の予定地）

〈再質問〉

県の動向を見ながら対応したいと考えます。

この事業は多くの費用がかかるため、合併特例債だけではできない事ではありません。

〈市長〉

市長の考えはどうか。

〈再質問〉

その結果により検討していきます。

山梨県の状況、投資効果の検討を調査しています。

その結果により検討していきます。

角度から上野原市の状況、

山梨県の状況、投資効果

の把握、まちづくり体系、

産業、地形、交通体系の

住民パターンや住民ニーズ

の調査、発展的な調査

として、財政力等様々な

基礎的調査として現状

の把握、まちづくり体系、

産業、地形、交通体系の

住民パターンや住民ニーズ

の調査、発展的な調査

として、財政力等様々な

基礎的調査として現状

の把握、まちづくり体系、

産業、地形、交通体系の

住民パターンや住民ニーズ

の調査、発展的な調査

として、財政力等様々な

基礎的調査として現状

防災的見地からも必要性を感じるがどうか。

〈建設経済部長〉

この事業には、莫大なコストがかかるので、県の支援を受けないとできないプロジェクトです。十分な調査をしたなかで進めないとできません。

〈建設経済部長〉

ルート等決定した段階で考えます。県の結果や長期総合計画の策定をに

長期総合計画作成後、検討していきます。

〈要望〉

建設推進委員会等を作ってはどうか。

らみ検討していきます。

〈再質問〉

市長には県にできる限りの働きかけを行っていただきたいがどうか。

〈市長〉

県の動向に合わせ事業を進めることをご理解していただきたい。

## 旧秋山村合併浄化槽 維持管理組合



関戸勝治議員

合併浄化槽の維持管理が徹底されないため、旧秋山村では、平成十五年度に町村設置型合併処理浄化槽の導入、及び合併処理浄化槽組合の検討が行われました。

日からは組合加入手続きも行われ、組合も稼働し始めたが、町村合併後この事務事業が新市に引き継がれていないのはなぜか。

しかし秋山村からは何の資料も提出されないまま合併の期日向え、地区総代は未だ未決定であります。

平成十六年九月二十九日には、秋山村合併処理浄化槽維持管理補助金交付要綱（一基三万円／年）、組合規約、及び組合施工規程も施行されました。

この件が始めて法定協議会に出て来たのは、平成十六年十月十二日であります。

平成十七年四月二十二日に下水道課職員と管理組合役員、市会議員、旧担当職員で協議の結果、

また平成十六年十月一

両町村の事務事業の調整を進めるため、進捗状況の確認表、現況調査表、

また平成十七年四月二十二日に下水道課職員と管理組合役員、市会議員、旧担当職員で協議の結果、



守りたい秋山川清流

任意団体として存続することです承した。

よって市としてはこれ以上組合に関与すること、特定の地域だけ優遇することは出来ません。

平成十六年度現在秋山地区二百四十三基、上野原地区四百六十基あり、将来は三千二十一基を見込んでおり、これを実施するには毎年九千万円の財政負担となります。今後市町村設置型も含

んだ、上野原市生活排水処理基本計画の結果による実施までは、補助は出せるか疑問です。

市としては浄化槽の管理現況はつかんでいません。

今後は管理業者に実施状況を報告させ、未実施者を指導すると共に、公報、ホームページ等で管理の徹底をP・Rしていきたい。

## 新地方行政改革の指針 次世代育成の支援計画



久島博道議員

### 一、総務省の新地方行政改革指針について

①「集中改革プラン」は今年度中に「事務事業の再編・整理、廃止・統合」など七項目を数値化し、提出・公表を課しているが当市の取り組みは。

②新指針の諸手当の改革で、当市は自動車通勤手当を支給し、駐車場は無料である。近隣自治体は有料であるが見直しは。

〈総務部長〉

「集中改革プラン」の策定・公表は年度内に。

職員の定員管理は特別職を除き、四月現在で総数三百十九人、うち病院職九十二人、消防職員五十二人であり、定員管理

計画対象者数は二百五十五人で新指針の四・六％純減の数値は十二人です。駐車場は百二十人が利用し、一ヶ所は年額九十一万三千円の借地です。

職員には福利厚生で無料ですが、今後行革の一环として見直します。

二、次世代育成支援行動計画について

- ①行動計画の策定手法は。
- ②計画で当市の特徴は。
- ③現状値と目標値は明確か、対策協議会の設置は。
- ④「発達障害児支援法」施行で当局の考えは。
- ⑤学童保育事業の遅れと今後の対応及び、「耐震性に問題」との新聞記事は。
- ⑥仮称、少子化対策・育

### 児支援課の設置は。

〈市長〉

学校施設も含め計画的に耐震化を図るが、学童保育の新聞報道は市民に不安を与え、遺憾だ。

新課の設置は秋山との職員の調整を図り、児童係の充実を検討します。

〈福祉保健部長〉

行動計画策定はコンサルと庁内関係機関で協議策定したが、当市は多摩地域へ通勤者が多く延長保育・駅前保育等の施策が必要であり、年内に「次



新しく出来た学童保育所（ありんこ2）

世代育成支援対策協議会」を設置します。

学童保育は、保護者の意向、施設の耐久性等も勘案し、保護者の要望に応えられる事業を実施します。

発達障害児支援は、これまでの事業の他、できる支援策を検討します。

〈学校教育課長〉

発達障害児に対し「特別支援教育コーディネーター養成研修会」を教職員中心に実施しました。関係機関の連携を図り教育的支援に努めます。

# ごみ減量の推進 下水道計画区域の見直し



中村道子議員

## 一、ごみ減量の推進

上野原町十六年度決算ではごみ処理に三億四千万円が歳出されています。焼却残渣の最終処分を

他県に委ねている現状では、焼却残渣の無害化技術により道路の路盤材に使う事例あり採用を。ペットボトル類の再利用にリサイクル業者への

販売や委託を見直すなどで税金の節約が図れます。分別の細分化には住民協力が必要、市民参加を求めます。

〈福祉環境部長〉

当市は山間地、水源地でもあり、市単独の最終処分場設置は難しい、県が行う処分場を待ちます。

## 最終処分まで市の責任

で、全国リサイクル協会の経路に乗せています。

共生の観点から資源環境型社会の実現に、住民、事業者と推進します。

環境基本計画にごみ減量に向けた計画の数値目標も位置付けていきます。

〈再質問〉

ごみ減量は環境負荷を減らし、地球温



上野原市の焼却残渣が運び込まれる、最終処分場

暖化対策に繋がります。京都議定書の発効に伴う温暖化対策への姿勢は。〈市長〉

県の地球温暖化防止計画に沿って行い、ごみの減量化については市民の協力を得ながら行います。二、生活排水対策

\* 桂川流域下水道の上野原の総事業費用は七十四

億円、国から十二億円、市から五億円、五十七億円が借金です。

これは事業をすればするほど借金が増大します。公共下水道事業区域の見直しを求めます。

〈建設経済部長〉  
事業のピークは過ぎ、

今後は借入の減少と加入増に努力すると共に現認可区域以外を見直します。

\*合併浄化槽  
汚れた時点で水を浄化する合併浄化槽は能力に  
応じて、水のリサイクルも可能ですが、設置後の管理に問題があります。

環境省推進の市町村設置型合併浄化槽設置事業の取り組みを求めます。

〈建設経済部長〉  
アンケートをし、合併浄化槽の市町村設置型を早い時期に、モデル的に実施します。

# 商工業の振興対策 子育て支援対策



小笠原俊将議員

一、市の商工業の振興について

市政発展の補償は、自主財源の拡充にある。

市の税収の基本となる商工業の振興を計る為の施策について工業団地の入居状況と施策は何か。

〈建設経済部長〉

上野原工業団地については、四十四社が入居済みで残りは二区画です。東部工業団地は十社が入居で残り二十四区画となっています。

工場誘致対策ですが、入居企業の固定資産税の減額、団地組合の運営費の補助を行っています。

その他に入居企業へのアンケート調査や山梨県が行っている企業補助制度の活用も図っていききたい。

二、「スーパー」オギノの出店について伺います。これまでの対策委員会との話し合いの中で、一つは予定地への交通アクセスの悪さ、又都市計画法の「但し書

き」規程が適用にならないのではないかと、又中心市街地の空洞化をまねくなど、意見が出されています。

いずれにしてもすでに四年が経過を待たずに結論を出すべきかどうか。

〈建設経済部長〉  
結論はまだで、土地利用調整会議で話し合っています。

都市計画法の中で大型施設であるかないかの数字的な面積規程はござい



入居が待たれる上野原・西東京工業団地

ません。

〈市長〉

私も商業者でどちらかと言えば、招かざる客だと思う。

しかし消費者は歓迎だとする声もある。

決定については県が出すことになっています。

〈再質問〉

形の上ではそうであっても実質的には市の意向が決定を左右するのでは。

〈建設経済部長〉

法的には色々な手法あり、商業者・住民の意見を述べる機会もございます。

三、子育て支援について

市立病院の小児科、産婦

人科の医師の確保ができたかどうか。

〈病院事務長〉

山梨医大・八王子医療センターとの交渉を行っています

ですが医師の数が少なく難しい状況ですが、引き続き各方面に働きかけていきたいと思えます。

## 県道四日市場上野原線 子育て支援対策



杉本友栄議員

一、秋山地区の充実した道路整備について

上野原市は、二月十三

日に上野原町と秋山村との合併により、誕生いたしました。

紆余曲折を経て、さまざま

な行政組織の違いを調整出来るものは調整し、両町村で交わした協定書を基に、行政サービスの低下を、招かないよう

行していく訳ですが、今道路関連事業では、天神

トンネルの早期実現が進められているが、今後どのような展開になるのか、

また秋山地区の唯一の幹線道路である四日市場上

野原線で、狭い道路が数箇所あり、広い道路から

急に狭くなる状態で、危険性を増している。

このことは、旧秋山村

当時でも、大きな懸案でもあったが、今後も同様に力を入れてもらいたい

がどうでしょうか。

〈経済建設部長〉

大月建設部に連絡をいたしましたして、早期に現地調査をお願い致します。

数箇所あるとのことですので、一度には無理だと思えますが、緊急度の高い順に、早急に工事が

出来るよう要望したい。

天神トンネルについては、市長が関係機関に、働きかけた結果十七年度中

に、用地測量・買収が終われば、十八年度工事着手し

て、三年間で、完成するよう県に求めている。

二、子育て支援対策は

市に家庭相談室が設置

されたが、どのような相談を受ける機関なのか。

開設後どの位の相談があるのか、行動計画を

実行するに当り、予算等はどのようになっているか。

〈福祉環境部長〉

福祉事務所内に家庭相談室を開設し、相談者へ最も身近で効果的な援助

が提供できるよう開設しました。

又、開設後の四月五日

の相談件数は延べ六十二

件、内四割弱は家庭内の

家族関係に関する相談で、専門の相談員や保険師が

対応しております。

行動計画の事業費についてはポイント制で、山梨県の補助金交付要項の中で、事業を申請することによって、その枠の中で交付金が付きます。



事故の多発する場所

## 4月～6月 議会活動

### 4月

- 1日 議会だより編集委員会
- 11日 議会だより編集委員会
- 19日 市町村議会議長会議
- 20日 関東市議会議長会 定期総会（議長）甲府市
- 28日 議会だより編集委員会
- 29日 戦没者慰霊祭

### 5月

- 10日 リニア中央エクスプレス建設促進同盟会総会（議長）甲府市
- 14日 太陽のつどい（議長）
- 17日 母子寡婦福祉連合会総会（議長）
- 18日 藤野町・上野原市議会懇談会
- 20日 上野原町商工会通常総代会（正副議長）
- 23日 上野原丹波山線道路整備推進連絡協議会
- 25日 全国市議会議長会定期会（議長）東京都
- 31日 山梨県市議会議長会定期総会（議長）都留市

### 6月

- 1日 文献改革日本実現全国大会
- 2日 議会運営委員会 第2回定例会について
- 2日 深城ダム竣工式
- 4日 建設常任委員会・厚生常任委員会
- 6日 主要地方道上野原丹波山線今川トンネル建設促進期成同盟会総会（議長）丹波山村
- 7日 経済常任委員会・総務常任委員会
- 9日～24日 第2回定例会
- 12日 身体障害者連合福祉会定期総会（副議長）
- 14日～17日 予算特別委員会
- 24日 議会だより編集委員会
- 29日 秋山村里親会総会（副議長）
- 30日 観光協会定期総会（議長）

## “市民の声”募集中

編集委員会では住民の皆様の生の声をお聞きして、市民が参加する議会だよりを目指しています。

（五百字以内）

宛先

上野原市上野原

三八三二番地

市議会だより

編集委員会



いつのまにか一緒にあそんでいる

表紙のつみ木は、ここ甲斐東部地域の森で間伐された木材を使って作られました。

上小ではここ数年、この間伐材にこだわって積み木を手作りしておられる荻野さんに来校していただき、「つみ木広場」を行っています。

子供たちは木の温もりを体感し、積み木を積み上げたり崩したりする事で、挑戦する意欲や達成感また友達との協調性などが生まれてくるようです。

### あとがき

今回は、十二名の議員が一般質問を行いました。十八件の問題点について、議員の意見や行政の考え方、市長の方針などが語られました。

一般質問に多くの議員が取り組むことによって、多くの行政課題が示されることに繋がります。

議案、審議、請願、発議、一般質問など、本会議場での発言を住民の皆様にも伝える役割を感じ、編集委員一同頑張っております。

編集委員長	中村 道子
副委員長	鷹取 偉一
委員	小俣 泰孝
委員	原田 弘喜
委員	村松 郁夫
委員	多賀井 左敬
委員	卯月 正次
委員	関戸 信二

印刷／上野原市桐原  
中島印刷株式会社  
（〇五五四）二〇・五五六六  
七三六